

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は法人の掲げる運営理念のもと実践につなげています。そこに生活の継続が掲げられ、地域とのつながりにこだわり、事業を運営しています。	法人理念としての「人として幸せに安心して生きる日々を大切にする」があり、玄関やリビングなどに掲示してあり誰もが目にすることができる。法人の月1回開催される全職員参加の全体会議の最後に全員で唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	菅平区自治会に加入し、総会や支部の行事の草刈、ゴミ拾いなど参加しています。日常のゴミ出しなどは地区のステーションを利用しています。菅平にあるお店も利用し、地域とのつながりを大切にしています。	区費の支払いをし自治会に加入し地域の奉仕活動や総会などに参加している。回覧板を利用して「お茶飲み会」の情報を発信したり地域の情報も得ている。毎月「童謡の会」のボランティアの訪問があり、地域の方からの野菜や果物の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、地域の小中学校で認知症についての研修会を行っています。また、ケアケア交流会などを通じて地域の方へ認知症の人への理解が広がるよう努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	菅平は夏季に集中して繁忙期があり、定期的に運営推進会議を開催する事が困難でしたが、民生児童委員・福祉委員さんらの協力をいただき定期開催をする事ができ、様々なご意見を頂いています。	年6回、開催している。区長、副区長、長寿会会長、民生委員、福祉推進委員、市職員、地域包括支援センター職員等で構成され、利用者の近況報告や活動報告を行い、委員からの意見・提案を聞いている。避難訓練の時には消防署員や消防団員の参加をお願いしており、冬場の避難経路の確保の提案などを頂き、玄関とは別にベランダ側に重機を使い除雪を行ったという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じ、市町村担当者の方と協力し、地域の要望であった「地域リハビリ」を進めることが出来ました。地域のニーズを今後も把握し菅平地域で必要とされるサービスを探っていきます。	2名の介護相談員が3ヶ月に1回来訪し利用者とお話をしている。地域の人々に声掛けし「ケアケア交流会」を行っており、市の「地域リハビリテーション活動支援事業」を活用しリハビリ体操も取り入れ11月からほぼ毎月実施している。介護保険更新申請代行を行い、調査員来訪時には利用者の状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束排除の委員会を持ち、身体拘束をしないケア・高齢者虐待防止の取り組みを行っています。法人の全体会議で研修もおこなっています。	法人の身体拘束排除委員会の委員にホーム職員も名を連ねている。毎年研修会が行われ職員は学んでいる。4月より共用型の通所介護が始まり、その利用者の送迎時に利用者も一緒にドライブを兼ね出掛けられるようにしている。転倒の心配のある利用者についてはベッドを低床にセットし、更に、床にマットレスを敷くなどの対策を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、委員会、全体会議で学ぶ機会を持っています。また、日ごろより、利用者の身体状況、会話等より虐待のサインを見逃さないように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、書類等預かりサービス、成年後見制度をそれぞれ利用している方があります。今後必要になるという方もあり、社会福祉区協議会とも相談を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、また改定などの時には、利用者ご家族様に説明を行い、不明な点などあれば、ご理解が得られるよう重ねて説明をおこなっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族のご意見・ご要望はどんな時でも伺っています。ご要望については法人としても承り、職員間でも共有し、運営に反映させていただいています。	利用者の意見、思いなどを汲み取り、職員もそれに沿えるよう努めている。家族の来訪頻度はまちまちであるが、訪問された時は利用者の近況報告をし家族からの要望などを聞いている。年1回家族交流会を開き、利用者、家族、職員がお互い自己紹介をしながらスライドショーを見て職員手作りの昼食を全員で頂き、要望などを聞き入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の菅平グループホームの会議を行い、運営に関する職員の意見、提案等を聞いています。グループホームで改善できることは速やかに改善し、また法人として対応すべきことはリーダーへ上げ、法人として検討しています。	毎月1回の定例会、法人全体の全体会議、グループホーム合同の勉強会、カンファレンスなど、職員の発言の機会が多い。ホーム内では利用者の些細なことでも意見を出し合いながら決めている。新人教育とキャリアシステムの導入で職員のステップアップが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況については管理者を通じリーダーに報告し、必要時には面接を行い、各職員の働きやすいように努力をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日ごろから利用者のケアについては情報交換を行い、職員間で共有するようにしています。また、毎月のカンファレンス、グループホーム勉強会、全体会議などで、ケアについての知識を身につける機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修、会議などで交流する機会や、上田市周辺のグループホームとの連絡会「フレンド会」で相互評価を行い、交流する機会を設けています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めてグループホームを利用するときには、利用開始前に、必ず利用者本人と会ってお話を伺っています。ご本人の困っていること、不安なこと、希望など丁寧に伺うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、ご家族の困っていること、ご要望についてもしっかり伺い、安心してサービスを開始していただけるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に、グループホームだけで解決できない場合など、法人内外で必要な支援ができないか検討いたします。「いま」、必要な支援ができるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者本人のできる力を十分に発揮していただき、ご本人と職員の協働作業で毎日の生活が営まれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ご利用者の日々の様子をお話しています。会話をきっかけに以前の暮らしぶりなど伺えることもあります。ご利用者を中心にご家族との絆を大切に継続していただけるよう努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで暮らしてきた家や地域、家族、友達とのつながりを大切にしています。出かけられる方は希望の場所に出かけ、懐かしい方々と会われることもあります。	共用型通所介護の同じ地域の利用者やお茶飲み会に参加する知り合いがホームに立ち寄ることがある。お正月に帰宅したり家族が訪問して一緒にお正月などを楽しんでいる。地域の御柱の時に帰宅し知り合いと共に昔ながらの御柱を見学した利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームの中の日々の暮らしで培ってきた関係を大切に、一緒に暮らす雰囲気を感じられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご連絡をいただいたり、ご来所して下さるご家族もあります。また、必要に応じてご相談も承っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れ、ご利用者の思いを伺いながら日々の暮らしを営んでいただくよう心がけています。また、ご家族からも暮らしぶりや若いころなどのお話も伺い、今のお気持ちを理解するよう努めています。	利用者は自らの思いを言葉やしぐさで表している。異性の職員による介助を拒否される方には常に女性が介助につくようにしている。夜勤の時など「悪い所どこもないのに何で家へ帰れないのだろう」と打ち明けられることもあり、利用者の言葉を否定せず受け止め可能な支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族のお話から、生活歴などその方のなじみの暮らしを理解するよう努めています。また、ご親戚の方からも思いがけず、若いころの貴重なお話を伺えることもあり、ご本人を取り巻くたくさんの方との関係を大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子は24時間の個別シートに記録し、心身の状態の把握に努めています。記録は日々職員間で確認し、その方にとって心地よい状態、活発に過ごしていただける状態を持っていただけるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向やご家族のお話を伺いながらその方の暮らしの目標を作っています。また、毎日の記録の把握と課題抽出、適切な支援を行いながら、カンファレンスなどで話し合い、職員全員でケアのあり方を検討しています。	家族の要望や利用者の毎日の生活の中からの言葉を拾いプランに反映している。A3の用紙に1週間分が記入される生活記録表を毎日記録し、月1回カンファレンスを行っている。全職員によるモニタリングを行い話し合い、計画作成担当者が計画を作成している。利用者によっては説明をし同意を得ることもあるが、基本的に家族へ説明し理解をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を中心に職員間で、情報を共有しています。日々、職員間で情報交換を活発に行い、ご利用者の様子を細かく把握できるよう努めています。また、職員の工夫も他の職員と共有し改善できることは速やかに改善するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームのサービスだけにとらわれず、ご利用者の希望に沿って、その方にとっていま必要なサービスを検討しています。また、今だけでなく、将来を見据えての話し合いも持ち、その方が安心して暮らし続けていただけるよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの暮らしの地域の方々や親戚友人、なじみの風景、話題などであってもその方を支える大切な社会資源であると考え、暮らしの中で活かせるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を継続あるいは変更ご希望があればその意向に沿って支援させていただいています。地域にある医療機関が、協力医として毎月往診し、丁寧な診療を受けることもできます。また、必要に応じて訪問歯科診療も受けることができます。	協力医による往診が月1回行われることもあり、家族からの要望で協力医へ変更されることが多い。訪問看護師が月2回訪れている。利用者の必要に応じて歯科医の訪問治療も可能である。通院は家族の都合などで職員が付き添うことが多い。法人本部には歯科衛生士がいるので口腔ケアについても相談を掛けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の個別記録シートと職員の情報から、必要時には速やかに訪問看護師に相談をしています。訪問看護師から主治医に連携され、受診等も速やかに対応していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医と連携し、必要な情報提供を行い、利用者が安心して治療を受け、また早期に退院ができるよう努力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時より「重度化した場合について」のお話をさせていただき、早期から終末期についての話し合いを持たせていただいています。ご本人、ご家族の意向はその時々の変更も含め、何度でも話し合いを持ち、確認しながら援助を行ってまいります。	重要事項説明書のサービス内容の項目に「重度化への対応」を記している。過去に3名の看取りを行っている。契約時の説明に加え、体調を崩した時には家族と常に話し合いの機会を持ち何度も話し合っている。職員は研修で看取りについて学び、看取り体制に入ると訪問看護師が毎日訪れるようになっており、家族が満足する対応を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人では毎年「救急法・AEDについて」の研修会を行い、応急手当や急変時初期対応について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っています。地域の方にも参加していただいています。都合がつけば、消防団の方にも参加いただき、グループホームの状況を把握していただき、ご指導をいただいています。	年2回訓練を行っており、今年度は7月と9月に行われた。利用者や通いの利用者、職員、地域住民の参加を得て夜間を想定し、通報・避難・消火訓練を行った。また、防災頭巾も用意されている。訓練実施後は必ず反省会を行い、その内容を次回に活かせるようにしている。災害時の備蓄も用意しており、地元の職員が多いことも心強い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念、アザレアンさなだの宣言、恵仁福祉協会倫理綱領のもと行動しています。法人の会議でも「法令遵守・倫理について」「個人情報・プライバシーの保護について」研修を行い、日々のケアを振り返る機会を持っています。	ゆっくりと、一人ひとりのペースを大切にした対応を心掛けている。入浴や排泄の支援についても男性職員を嫌がる利用者には女性職員が対応している。利用者への声掛けも敬意を込め名前や苗字にさん付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、ご本人の意向を表出していただけよう働きかけ、自己決定していただけるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体の生活の流れはありますが、その時々様子や体調や希望によって、自由に生活していただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつもおしゃれでいられるよう、「自分らしい」身だしなみで心地よく過ごしていただけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一つのテーブルを囲み、一緒におしゃべりしながら食事をとっていただいています。食事の嗜好を伺いながら、好みの食事を準備するよう努めています。食事の準備、片付けもできる範囲で行っていただいています。	職員が献立を作成し、食材はまとめ買いをしている。法人の管理栄養士に献立の評価をお願いしている。利用者と職員が顔を見ながら食事をしているが、利用者によっては自室で食べることもあり自由である。お盆やお正月などには特別な料理が提供される。利用者の手伝う場面は少なくなったができてお手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録シートを活用し、日々の水分摂取量、食事を把握し、体調の維持に努めています。一人ひとりの嗜好についても一覧表にし、献立表とあわせ適切な食事が提供できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人お一人口腔ケアを行っています。手順の分からない方も付き添い、一つずつ手順を追って説明し、できるだけご本人の力で口腔ケアも行っていただくよう努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の個別記録の活用、職員間の情報交換、検討を重ね、一人ひとりの排泄パターン、習慣を把握し、支援しています。日中は、全利用者がトイレを使っていたりしています。	自立されている方や職員の声掛けで排泄される方など様々であるが日中はトイレ排泄としている。常に排泄の仕方を職員で意見交換し支援している。夜間の使用目的でポータブルトイレを居室に置いている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘で下剤を使用している方もありますが、できるだけ下剤の使用が少なくなるよう努力しています。良い排便につながるよう、野菜の多い食事、適切な水分摂取、歩く事や運動、腹圧に良い姿勢などの支援に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ずつ、個別に入浴していただいています。希望に沿って入浴していただくよう努めています。入浴方法が分からない方も、工夫を重ね、気持ちよく安全に入浴していただけるよう努力しています。	ほぼ1週間に2回の入浴となっている。脳梗塞を患った方がいるが、安全に配慮しながら全員が浴槽に入ってもらえるようにしている。浴室にも床暖房が施され温かい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、静穏、寝具等、広範囲に配慮して支援しています。日中、居室よりも、食堂やソファで休まれる方もあり、その方が一番安心できる場所とタイミングで休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について職員間で共有し、個別記録にファイルもしてあり、いつでも確認できるようにしています。また、服薬支援については慎重に行い、症状の変化などは訪問看護師と情報共有し相談を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのタイミングで好きな事や気分転換ができるよう、会話の中や、表情、体調などからきっかけを探し、支援を行っています。ちょっとした外出、おしゃべり、洗濯物たたみなど様々な事が、生活の張り合いの材料になると考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿って、地域のお祭りに出掛けたり、コンサートに出掛けたり、なじみの商店へ買い物に出かけています。ご近所をくるとドライブする事もあり、季節ごとの風景を感じていただけるよう支援しています。	お天気の良い日には近所を散歩し、春には蕨などを摘んでくることもある。広い庭に出てお茶を飲んだりして外の空気を味わっている。高原のツツジや桜、百日紅など、ドライブを兼ねながら見学している。利用者の希望で須坂市で行われたコンサートへも職員同伴で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人の希望や力に応じてお金を持っていていただきます。ご本人が銀行や買い物に出かけることもあり、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接お電話できる方は自由に電話を使っています。ご家族やご親戚、知人の方々との関係が継続できるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が心地よく過ごしていただけるよう、ご利用者と話したり、様子を感じながら、環境を整えるよう努めています。	全館床暖房で外の寒さは感じられない。利用者のスナップ写真が掲示され、ひもとき・思い出カレンダーと月・日・曜日のカレンダーも利用者の目線に掛けられていた。加湿器が3台稼働するようになっており、ベランダ側にはテレビ、本、ソファが向かい合わせに配置され、利用者が好きな場所で過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具やソファの配置など工夫し、仲良く座ったり、さりげなく視線を避けることができるよう、努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースに可能な限り、ご本人の物を置いていただいています。体の状態に合わせてベッドを使用するようになって、使い慣れた布団や枕などを使い居心地よく過ごしていただけるよう支援しています。	全館、床暖房が施され、洗面台と収納庫が備え付けとなっている。ベッドは各自レンタルで借りている。室内に伝い歩きしやすいように椅子が飛び石のように配置されている居室、カラーボックスをきれいに並べている居室なども見られた。窓から見える景色は格別に美しくペンションの一室のようであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からなくなってしまうと、カーテンの開け閉めはできたり、昼寝から起きてリビングまでは自分で出てくる事ができたり、お一人お一人の力を発揮していただける場面を多く持てるように、支援しています。		